

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念を作成しホーム玄関口に掲示して入居者、家族が見れるようにしている。</p> <p>○</p>	<p>今後も掲示はしていく。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>月1回スタッフミーティングを行い意見の交換と実現に向けての取り組みの確認を行っている。</p> <p>○</p>	<p>月1回のミーティングは今後も確実に行っていく。問題が生じた時にはミニカンファレンスを行っていく。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>年2回の家族会の実施時、面会時に家族には説明を行っている。また、2ヶ月に1回の運営推進会議の実施。地域の人々の見学の受け入れ、ボランティアの受け入れ、実習生の受け入れを行っている。</p> <p>○</p>	<p>運営推進会議を実施していくとで地域の方にグループホームを理解して頂き地域に根ざした施設になるよう努力する。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>家庭菜園で取れた野菜のお裾分けを行っている。見学も連絡があれば随時受け付けている。</p> <p>○</p>	<p>野菜のお裾分け等の交流は今後も続けていく。毎日の散歩時に挨拶を今後も続けていく。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域に小学校と保育所がありそこからの慰問等の受け入れを行っている。</p> <p>○</p>	<p>運営推進会議等を通して地域の様々な活動に利用者が参加できる機会を作る。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の福祉、医療機関のネットワークに積極的に参加し、事業所で得られる高齢者の対応のノウハウを提供し高齢者の支援体制の強化に協力している。	○	町内会に参加し地域住民からの要望を吸収したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後にスタッフミーティングを行い、指摘を受けた項目について検討を行っている。	○	今後も継続していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月に第1回目の運営推進会議を行ったばかり。ホームの運営、サービスの提供について報告をした程度。	○	今後は会の回数を重ねていくことで参加者から取り組みについての意見を頂き、サービス向上に活かしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議以外にも必要に応じて行き来し、意見の交換を行っている。	○	今後も継続していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に地域権利擁護事業については利用したことがある。研修には管理者及び計画作成担当者が参加しており、必要な場合においては利用者にも説明することができる。	○	情報提供ができるようにパンフレット、資料等を準備している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修も参加している。ホーム内で虐待が起きないようにスタッフには周知徹底している。	○	利用相談時等に家族等から相談があった場合は家族が適切に対応ができるよう支援を行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前より十分な説明を心がけている。	○	入所前より入居後の対応についてまで家族と話し合いを行い、グループホームでの生活を継続することが困難になった場合でもスムーズに次の施設への引き継ぎができていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口及び担当者が明記され、入居者や家族に繰り返し説明している。また、玄関の見やすいところに明示されている。	○	家族の面会時にはスタッフから家族に声かけを行い意見や苦情を聞くことに務めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に入居者の暮らしぶりや、日常の生活の様子を積極的に情報提供をしている。月1回ホームより家族にお便りの発行をし職員の異動及び新規利用者の入所等の状況を報告している。	○	今後も継続していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にはスタッフから家族に声かけを行い意見や苦情を聞くことに務めている。	○	意見があった場合は真摯に受け止め適切に対応を行う。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング及びミニカンファレンス時に意見交換の場を設けている。	○	ホームの運営や、入居者支援に関しては職員が自由に意見を述べることができ、意見は尊重され運営方針に反映されている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	月1回のミーティング及びミニカンファレンス時にスタッフに業務内容等に併せた勤務態勢の必要性について確認、検討を行っている。	○	状況に応じて対応している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はやむを得ない。退職等、最小限に止めている。	○	サービスのマンネリ化を防ぐため、法人内グループホーム職員の交流を推進していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	全スタッフ、認知症ケアの専門家としてまた、人間的成長を育むため、職場内研修と職場外研修を有機的に関連づけながら研修を実施している。	○	今後、全国GH教会主催のステップアップ研修や地域の交換研修に積極的に参加していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	宮崎県認知症高齢者グループホーム連絡協議会への参加及び関係機関等の勉強会の参加を行っている。	○	今後もスタッフに研修参加の機会を与えていく。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	福利厚生は充実しており、定期的に慰労会等を行っている。また、上司は部下の悩み等の相談に努めている。	○	今後も継続していく。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	年1回の人事考課を行っている。	○	今後も継続していく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入所前に十分な時間を設け本人の生活状況の把握及び家族への聞き取りを行っている。	○	利用前の基本情報及び生活状況等について家族に記載をして頂いてから聞き取りを行っている。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族が安心してサービスを利用できるようにまずは家族の介護での苦労話等を十分に伺い、それについて理解を示すことに務めている。	○	今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にグループホーム以外のサービス対応が望ましいと考えられる場合については家族に適切なサービスについて説明、検討する機会を設け必要に応じて他のサービス機関への紹介、調整を行っている。	○	今後も継続していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がグループホーム利用によって急激な精神的な変化が生じると考えられる場合は、ショートステイ利用からサービスを開始して本人が馴染めるように工夫している。	○	本人の状況の把握、家族、在宅のケアマネと連携して安心してグループホームへの入居が行えるよう支援をしていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクリエーションや調理時に利用者の世代の話を行うことで利用者の持つ知恵を引き出すことができ、それによってスタッフが知らないことを学ぶことができる。	○	高齢者の知恵を引き出す工夫を行っていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との面談時等に色々な話をする中で共通認識ができていく。	○	今後も継続していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との話の中で得た共通認識をスタッフ間で共有し、誰が対応しても適切な介護が行えることができる。	○	今後も継続していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に対して外出、外泊等の支援をお願いする。また、ホームでのドライブ等において利用者の希望を尊重して対応している。	○	今後も継続していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の個性、性格をスタッフが把握し本人の能力に応じて役割を持たせることで家庭の一員としてみんなで支えられるように努める。	○	今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も本人、家族より相談があれば支援をしている。	○	今後も継続していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に本人、家族から情報を取る時に今までの本人の生活の在り方、今後どのように生活をしていきたいか話し合いを行っている。	○	現在、センター方式を使用したケアマネジメントへの変更を検討中。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族より聞き取りを行い、情報の収集に努めている。	○	現在、センター方式を使用したケアマネジメントへの変更を検討中。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居後の生活状況についてはケアを行いながら状態を観察し、適切な対応が行われているか必要に応じてミニカンファレンス等を行っている。	○	利用者の個々の能力に適したケアが提供できるよう努めていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族面会時等に本人、家族と必要に応じて面談を行っている。その時に出た意見、要望等についてはプランに取り入れるよう努力している。	○	グループホームでより良い生活ができるよう、本人、家族との面談を今後も行いプラン作りを行っていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化に応じて家族との面談は実施し必要な対応を行っている。プランの変更は対応が先になることが多く、事後作成になっている。	○	早急な対応は今後も続けていく。新たなプラン作成についても早めに作成をできるよう努力していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録については毎日の記録を行っている。記録を見て必要に応じて身にカンファレンスを実施している。	○	現在、日々の記録方法についてもセンター方式による記録の導入を検討している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望等に応じて、家族、地域資源を生かした支援ができるように心がけている。	○	今後も利用者の要望に可能な限り対応ができるよう支援をしていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くに小学校、保育所があり定期的に慰問等の交流はある。民生委員さん宅は隣になるため常に協力頂けるようお願いをしている。また、事故等のことを考え、警察、消防とも連携を取っている。	○	今後も継続していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームのケアだけでは対応が難しい分野について地域包括支援センター、在宅介護支援センター、社協等に相談をしたりして適切な支援ができるよう努めている。	○	今後も継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、権利擁護を利用している利用者はいないが、運営推進会議への参加をお願いしており、定期的にホームの情報は地域包括支援センターに提供をしている。	○	必要性があれば協力をお願いする。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を大事にし、希望の掛かりつけ医への受診ができるようにしている。情報提供等の必要性があれば本人、家族に同行している。	○	今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在の所、法的には認知症の診断は掛かりつけ医の診断で良いため全ての利用者に専門医への受診は行っていないが今後、必要な支援であるため新規利用者については専門医への受診を進めている。	○	認知症介護実務者研修の中でも専門医との協力体制についての取り組みが言われているため専門医への受診、情報交換を行っていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が正看護師で、あと1名看護師が勤務しており日常の健康管理を行っている。医療機関との情報交換も蜜に行っている。また、訪問看護ステーションとの協力も取れるため、医療連携加算の算定を行っている。	○	利用者の健康管理、医療との連携については今後も行っていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の回復状況によるが入院時でも当ホームへの復帰ができるよう入院から1ヶ月は居室の取り置きを行っている。また、入院中の状況については病院側と連絡を取り合っている。	○	今後も継続していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算を取っていることから終末期の対応についての指針を設けている。本人、家族、医師と協議を行い希望があればできるだけ対応は行っていく。	○	本人、家族の希望があれば真摯に対応を行っていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームのスタッフはもとより、掛かりつけ医、必要に応じては訪問看護ステーション(医療)のサービスを利用できるように対応を行う。	○	必要時にはマニュアルに沿って対応を行う。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人がグループホームから転居の際は前もって次に移る施設のスタッフに来て頂き、本人、家族を含めて情報交換を行っている。	○	今後も継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフミーティングの時などスタッフへの指導を行っている。	○ 今後も継続していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の能力に合わせ説明を行うように努力している。その際に、相手に失礼にならないように説明を行うように注意している。	○ 本人の状態に合わせて支援を行っていくよう心がける。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけスタッフ側から押し付けることなく対応するように心がけている。本人の希望が言いやすいように話を行う環境を整えている。	○ 十分と言えるかは分からないができるだけ利用者本位になるよう心がけている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホームスタッフによる送迎対応等は困難であるが、本人より希望があれば家族と話をし、家族による支援ができないか話し合いを行っている。	○ 家族対応が可能であれば協力をお願いして対応する。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容等については利用者の希望をできるだけ取り入れて調理を行っている。調理の手伝い等については能力的に可能なものであれば手伝って頂いている。	○ 今後も継続していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙については園の方針により禁止。飲酒についても現在は行事の時以外は控えている。他の物については病気等の利用がない限り特に制限は設けていない。	○ 喫煙については時代の風潮もあり許可を認めることは考えていない。飲酒については利用者の中にアルコール依存気味の方がいるため見合わせが必要との判断を取っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを把握して対応を実施している。	○	今後も継続していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は1日置きに入浴を実施している。本人の希望の曜日、時間帯での対応はスタッフの人数から他者へのケアが疎かになるため実施していない。	○	現在の所、利用者の希望の時間帯での入浴対応の支援については考えていない。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯や就寝時間は決めてあるがその日の本人の状況に応じて対応は行っている。昼寝についても昼夜逆転等の認知症の周辺症状が見られない場合は特に制限は設けていない。	○	利用者の状況に合わせて対応をしていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所前の聞き取り等を参考に様子を見ながら支援を行っている。	○	今後も継続していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等の問題もあるため全利用者には行っていない。家族に紛失の危険性を説明した上で同意のある方については小額の金額を持たせている。	○	今後の検討課題としても取り組むには難しい課題。常に紛失の危険性はあるうえ、認知症で後見人制度、地域権利擁護の活用が必要の検討も一方ではある状況のため管理ができず紛失等のリスクは高い。家族が承諾できる金額程度しか対応はできない。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	離設の問題もあるため利用者一人での外出は認めていない。家族支援での対応でお願いしている。	○	離設についての防止は行政側からも指導があるため利用者一人での外出対応は困難と思われる。家族の協力及びインフォーマルサービスを活用しての外出が可能であれば検討します。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	現在はホームでのドライブや家族の支援により対応している。	○	今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話、手紙のやり取りができるように支援している。	○	今後も継続していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間の制限は設けておらず、気軽に面会をして頂くようお願いしている。	○	今後も継続していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については生命の危険性等の問題がない限りその弊害を理解して実施していない。生命の危険性がありやむなく実施する場合についてはその状況等を記録し、家族に同意を求めるものとする。	○	今後も継続していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵を掛けていないが入口の格子は鍵をしている。安全のためやむを得ない措置として入居者や家族に説明し、同意を得ている。	○	問い61の設問で答えた通り。離設に対する予防のため格子は施錠を行っているが建物から庭に出るのは自由に出れるように配慮している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の状態には何時も気を配り、安全に問題はないか見守りを行っている。また、状態に変化が見られるときは申し送りを行いどのスタッフが対応しても問題がないように心がけている。	○	利用者の安全が保たれるよう注意しながら支援を行っていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	金銭については家族の同意を得て小額であれば本人に管理させる等を行っている。他に注意が必要と思われる物品がある場合は家族等を含め検討を行い対応している。	○	本人、家族の希望を踏まえ対応が可能かは検討して対処するように努める。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修会の参加及び地域社会、医療、警察、消防等と連携して不慮の事故が起きた時の対応に備えている。また、そのような事故が未然に防げるよう環境の改善、スタッフの質の向上を行っている。	○	スタッフの質の向上に今後も取り組み事故防止に努める。もし事故が発生した場合はホームに備えるマニュアルを参考にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	経営母体である医療機関の方での勉強会に参加して救急蘇生法等の技術を身につけるように取り組んでいる。	○	今後も研修には定期的に参加をしていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練については年2回実施している。避難場所についても確保はできている。また、協力については地域、行政にも協力が頂けるように働きかけは行っている。	○	今後も運営推進会議等の中で行政、地域の代表の方に協力頂けるよう説明を行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族の面会時等に利用者の現況については説明を行い。その時に一番適した対応ができるよう心がけている。	○	今後も継続していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護スタッフによる利用者の状態確認は常にできており、異変があれば速やかに医療機関に受診を行っている。家族への連絡も行っている。	○	今後も継続していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については薬品の説明書を保管しており、受診時に処方変更になった際も注意して確認をしている。また、処方変更時等は状態変化が起きやすいため注意して状態確認を行い記録に残している。	○	今後も継続していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食べ物の工夫や水分を多く飲ませる、運動を行う等の取り組みは行っている。	○	体操等をもっと取り入れることを現在、検討している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについては毎食ではないが朝、夕の2回、確実に行うよう取り組んでいる。	○	単に口腔清潔だけでなく口腔機能向上のため口腔機能体操等に取り組んでいくよう検討中。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックについては毎食後行っている。食事量が低下傾向の利用者がいる場合は十分に食事が摂取できるよう検討を行っている。	○	状態観察をしながら必要に応じて取り組んでいく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム内にマニュアルがありそれに沿って対応を行っている。	○	マニュアルに沿って今後も対応を行う。マニュアルについては必要に応じて見直しを行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理に使用する道具については使用後、清潔にしている。食材の保管については買い物時に注意して新鮮なうちに消費できる量のみを購入を行い、必要以上には買い込まないように努めている。	○	今後も継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家族、近隣の方との交流に特に制限は設けていない。訪問の際、誰が来られたのか分かるようにモニター付きのインターフォンが設置してある。	○	運営推進会議等の場を利用して地域の方がもっとホームに気軽に来れるように説明を行っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型の建物のため利用者が馴染みやすいのか今までに特に苦情が出たことはない。家族、見学される方からも施設風の建物と違い安心できる建物との評価を頂いている。	○	利用者の使い勝手等については定期的に利用者、家族、スタッフに確認を取り工夫を行っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物が狭いため一人になれる空間の確保は難しいが、利用者一人一人が自分の定位置を決めて馴染んでいる。居心地良く過ごされている。	○	利用者が居心地良く生活できおり維持できるように努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族にはグループホームの趣旨を十分に説明し、本人が家で使い慣れた物をできるだけ準備して頂くよう説明している。部屋に持ってくる物については家族が本人のことを十分に考えている。	○	利用者が今までの家での生活とできるだけ変わらず生活できるように家族に説明を継続して行っていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気には気を配り、窓の開放等についてはしっかり行っている。また、温度調整についても小まめに気を配るよう心がけている。	○	今後も継続していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	古い民家の改造した建物のため狭く、段差もあるが躓きやすい段差にはすり付け板の設置。手すりの設置を行っている。	○	利用者が不自由がないように環境面については可能な限り必要時に整備を行っていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	スタッフ側から指示をするのではなく、利用者ができるだけ自分の意思、考えで行動ができるように見守りに力を入れる等努めている。	○	利用者の特徴を尊重したケアができるように努める。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	濡れ縁で洗濯物を干すことができる。庭も芝生敷きに変更して自由に過ごせる環境を整えている。また、家庭菜園も設けており野菜作りも行っている。	○	庭を芝生に変更したばかり。自由に過ごせる空間を増やしたことでゲートボールなどの運動ができるよう取り組んでいく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者が安全で安心して生活ができるように、利用者本位を大切にし、スタッフも本当の意味での家庭的なケアを提供できるよう取り組んでいる。また、スケジュール等を立てて画一的にケアを提供するのではなく入居者の状態を観察しながら必要に応じて対応を行っている。それ以外にも月1回程度のホームでの外食やドライブ等の行事を行ったり、入居者の家族に対してお便りを毎月、送付するなどの取り組みも行っている。